

戦争の調べ方

日本編 ～第二次世界大戦を中心に～

2007.5 山梨県立図書館



日本軍について調べる

step1 事典類を使って全体像を調べてみましょう

『帝国陸海軍事典』（大浜徹也，小池郁郎編 同成社 1984）

制度、組織、生活、戦略・戦術・兵器など日本軍の歴史が理解できます。巻末資料には主要法令も掲載されています。

『日本陸海軍事典』上・下（原剛，安岡昭男編 新人物往来社 2003）

日本陸海軍のあらゆる項目を詳述した本格的な事典です。戊辰戦争から太平洋戦争までの戦争に関わる用語を収録しています。上巻では制度・組織、軍事用語、兵器を解説。下巻では戦争・事変・事件、人物を解説。

『日本陸海軍総合事典』（秦郁彦編 東京大学出版会 2005）

日本陸海軍の基礎的研究が掲載されています。その巨大な制度・組織を人事を中心とする基礎データでまとめた総合事典です。

step2 軍事用語を調べてみましょう

『日本軍隊用語集』正・続（寺田近雄著 立風書房 1992-1995）

現在では使われない言葉をエッセイ風に紹介しています。

『防衛用語辞典』（真邊正行編著 国書刊行会 2000）

現在の軍隊（日本・米軍・NATO軍・国連軍）と過去の軍隊（陸軍・海軍）の用語集です。用語を使用している軍隊をマークで表示しています。

『国防用語辞典』（防衛学会編 朝雲新聞社 1980）

国防関係用語の定義を記載しています。軍事関係を中心に1,809語収録。

『大日本兵語辞典』（原田政右衛門著 国書刊行会 1980）

大正7年初版、大正10年増補改訂版の復刊です。昭和期の帝国陸軍を知る上での参考資料です。

step3 どんな資料が出版されているのか調べてみましょう

『太平洋戦史文献総覧』（井門寛編著 歴研 2000）

手記、回想録、日誌、現地報告など実際の体験に基づくものを中心に、地域別、戦闘形態別に分類配列しています。

『日本陸軍の本・総解説』（陸軍史研究会編 自由国民社 1985）

伝記・人物、自叙伝・回想録、軍事史・作戦史、戦記・従軍記、戦争文学・随想、技術・兵器に分類し、それぞれに大要と解題が記されています。

『日本海軍の本・総解説』（海軍史研究会編 自由国民社 1985）

伝記・人物、戦記・従軍記、日記・回想録、海軍生活記録、日本海軍草創期、海軍通史・評論、海軍技術・報告書に分類し、それぞれに大要と解題が記されています。



制度・組織について調べる

『近代日本軍制概説』（三浦裕史著 信山社出版 2003）

近代日本の軍制を憲法体制の一環としてとらえ、その法的意義を説明しています。



『帝国陸軍編制総覧』全3巻（森松俊夫・外山操執筆 芙蓉書房出版 1993）

陸軍組織の編制史です。索引は『陸軍オール部隊名鑑』（芙蓉書房出版 1988）です。

『陸軍師団総覧』（近現代史編纂会編 新人物往来社 2000）

師団とは陸軍部隊の最大単位で、編制は平時と戦時で異なります。制度・組織の基礎的事項の解説、師団別の解説(歴代師団長・編成時期・軍事作戦史)が掲載されています。

『日本陸軍歩兵連隊』（新人物往来社 1991）

歩兵連隊とは陸軍部隊の単位です。全国各地で編成され、甲府にも連隊が編成されました。連隊別解説には編成時期・軍事作戦史が掲載されています。



『日本海軍編制事典』（坂本正器・福川秀樹編著 芙蓉書房出版 2003）

海軍の組織、制度、人事について掲載されています。海軍省・軍令部・鎮守府といった官衙と、連合艦隊などの艦隊、海軍が使用した艦艇・航空機などの主要兵器についても解説があります。

『海軍』日本史小百科 28（外山三郎著 近藤出版社 1991）

海軍の全貌を百の視点から解説しています。巻末には、軍人勅諭、海軍服装・旗章、軍歌、歴代第一（連合）艦隊司令長官名、遠洋航海表、海軍機構図、海軍史年表が記載されています。

『日本海軍史』全11巻（海軍歴史保存会 1995）

世界と日本の動向を背景に、政治、外交、教育、文化、技術などの各般にわたって叙述しています。



人物について調べる

『日本陸海軍人名辞典』（福川秀樹編著 芙蓉書房出版 1999）

『陸海軍将官人事総覧』『帝国陸軍編制総覧』を基礎として編纂されています。少将・将校担当官の少将以上、歴史上重要事件関係軍人を掲載しており、人名・出身・軍歴等が解説されています。軍歴は少将以降を記載しています。また、陸海軍別主要人事表が掲載されています。



『日本陸軍将官辞典』（福川秀樹編著 芙蓉書房出版 2001）

兵科将校、将校相当官の少将以上を五十音順に掲載しています。名誉進級（戦死など死没後の任命）も含みます。

『陸海軍将官人事総覧－陸軍編－』（外山操編 芙蓉書房 1981）

少将以上軍事史的重要人物を陸軍草創期、陸軍士官学校出身、陸軍将校、担当官にわけ掲載しています。氏名・出身・生没年月日・軍歴、陸軍大学校卒業者名簿・索引もあります。



『日本海軍将官辞典』（福川秀樹編著 芙蓉書房出版 2000）

兵科将校、機関科将校、将校相当官の少将以上を五十音順に掲載しています。名誉進級（戦死など死没後の任命）も含みます。

『日本海軍指揮官総覧』（新人物往来社 1995）

五十音順人物事典です。海軍主要人事表が掲載されています。

『陸海軍将官人事総覧－海軍編－』（外山操編 芙蓉書房 1981）

少将以上、軍事史的重要人物を海軍草創期、海軍兵学校出身、海軍機関学校出身、海軍士官相当官にわけ掲載しています。氏名・出身・生没年月日・軍歴、海軍大学校卒業者名簿・索引もあります。



兵器について調べる

『日本の軍用銃と装具』（須川薫雄著 国書刊行会 1995）

銃の種類別解説が載っています。日本軍の個人用装備（背囊、飯盒、水筒、腕時計など）の解説があります。

『日本陸軍兵器資料集』（宗像和広、兵頭二十八編著 並木書房 1999）

戦前、日本にあった「泰平組合」という兵器輸出団体のカタログ。品目、図面、解説が付け加えられています。

『もう一つの陸軍兵器史』（藤田昌雄著 光人社 2004）

大東亜戦争の時期を中心とした日本陸軍のろ獲兵器を紹介しています。

『写真日本の軍艦』全14巻（雑誌「丸」編集部編 光人社 1989~1991）

艦種別、時代別の主な軍艦の写真集です。行動年表が掲載されています。

『日本陸軍便覧』（米陸軍省編 光人社 1998）

アメリカ合衆国陸軍省が作成したもので、ほとんどが1944年6月30日までの作戦中に得られた情報に基づいています。歩兵の兵器、砲兵、戦車・装甲車、化学戦の防護兵器・装備品、攻撃兵器が写真とともに詳述されています。

＊戦史・戦術を詳しく調べるには……＊

『戦史叢書』全102巻（防衛庁防衛研修所戦史室著 朝雲新聞社 1966-1980）

防衛庁が第2次大戦について編纂した書です。大本営関係34巻・陸軍戦史37巻・海軍戦史21巻・陸軍航空戦史9巻・年表1巻。地域別・年代別に細詳な解説が書かれています。

『連合艦隊海空戦戦闘詳報』全18巻・別巻2（アテネ書房 1996）

戦闘詳報を原本のまま復刻しています。総索引は別巻2。「い号作戦」など作戦名から、また、「神風特別攻撃隊」など部隊名で検索が可能です。

防衛庁防衛研究所図書館（史料閲覧室） <http://www.nids.go.jp/>

旧日本軍の資料（日本軍の焼却・破棄を免れた資料は戦後米軍に没収され、国務省公文書部が保管、昭和33年日本に返却）の大部分を所蔵しています。

閲覧：月～金曜（要申込）。貸出不可。複写は後日郵送。レファレンスは封書で。